

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

憲法9条を守り生かす
宮城のつとめ2019

日にち▶2019年11月4日（月・祝）
場所▶仙台サンプラザ大ホール
時間▶12:30開場 13:00開会
講演：「憲法を活かし
世界に誇れる日本にするには」
講師：伊藤 千尋氏（国際ジャーナリスト）
主催／みやぎ憲法九条の会 TEL:022-728-8812

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部50円

2019年宮城民医連前期慢患合同交流会

サルコペニア・フレイル
について学んだ

長町病院 管理栄養士 鎌田 弘美



藤原大医師

9月21日、坂総合病院2階セミナー室において、2019年宮城民医連前期慢患合同交流会が、医師・看護師・管理栄養士・リハビリスタッフ・事務など38名の参加で行われました。

前半は県連内12病院の糖尿病の管理内容について、坂総合病院の沖本久志医師から報告されました。県連内の糖尿病登録人数は約7000人・平均HbA1cは7.05%・平均年齢71.7歳です。この規模でのHbA1c 7.05%はまずまずと沖本医師。

沖本医師から、全日本民医連での報告から「2012年から2018年の6年間の40歳以下の若年糖尿病の追跡結果から、網膜症発症率の変化はないが、腎症発症率は増加している」と報告がありました。

高年齢化が進んでいて社会的問題も拡大している（坂総合病院）。認知症の高齢者が独居の方のアプローチが難しい（泉病院）。健診で見つかった時にはすでに重症化している事例、リハビリ科からのDM患者が増加している（長町病院）。外来でインスリン治療している方80名に低血糖に関してアンケート調査を実施（古川）。初めて参加したくまクリニックなど、参加したすべての院所から報告がありました。

後半では「慢性疾患におけるサルコペニア・フレイル」と運動と栄養の有用性と題して、坂総合病院リハビリテーション科藤原大医師の特別講演を行いました。



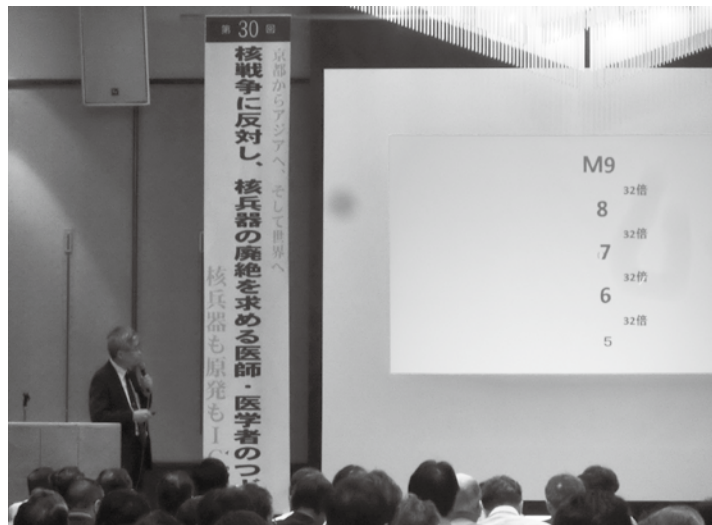
慢患合同交流集会

①サルコペニア・フレイル予防は対象年齢が若くなってきている現状を踏まえてギアチェンジが必要 ②サルコペニアと低栄養は診断基準に基づいて、その原因も含めて日常的に評価する事 ③食事ではたんぱく質・アミノ酸摂取、運動では適切な負荷・頻度のレジスタンストレーニングを重視する ④「リハビリテーション栄養」という考え方で栄養と運動を一緒に考えて評価と実践をする ⑤衣食住と社会参加が基本要素 生きがいにつなげるーの内容でした。



体を動かす

「サルコペニア・フレイル」は、慢性疾患におけるサルコペニア・フレイルと運動と栄養の有用性と題して、坂総合病院リハビリテーション科藤原大医師の特別講演を行いました。



原爆投下予定地図を説明する樋口英明元福井地裁裁判長

第30回の反核医師のつどいは9月14日から15日、メルパルク京都で、全国から医師・歯科医師・医学生など270人が参加し、大いに盛り上がった。核軍縮の研究者、黒澤満教授による記念講演は「核兵器禁止条約の背景・内容・今後の課題」「トラップ政権の核政策とその特徴」の二本立て。盛りだくさんの話だったが、それぞれを深く掘り下げてもいい、少し頭の中が整理された。



宮城の参加者

「被爆2世への放射線被ばくの影響は認められない」とする放影研の調査結果と自分たちの現状が大きく違うことから、「被爆2世3世の健康実態の真実に迫り自分たちと子どもたちの健康を守ることにつなげること」「世界のあらゆる核被害者と手を結び、救済を目指すこと」などを課題として2012年に発足した京都「被爆2世3世の会」の活動報告。被爆2世に起こっている健康被害は様々あり、とても影響

「Don't Bank on the Bomb」とは「核兵器製造企業とそれらに融資を行う金融機関を分析する報告書のこと。」「核兵器製造企業に融資している金融機関を公表し、そこに貯金しないよう呼び掛ける活動」を掲げていくことが、今後の核軍縮に大きな力を発揮するだろうことを知った。自分たちの貯金がいづかの間に核兵器製造に使われていた。自分が使っている銀行が載っていないか調べてみて下さい。

樋口英明元福井地裁裁判長の特別講演。私が大飯原発の運転を差し止めた理由「では、これからの人生は原発をなくすことに費やす」との氏の強い決意に心が震えた。被害の大きさを考えれば、地震国日本で、断水でも停電でも4〜5時間でメルトダウンしコントロール不能になる原発は、阻止する以外ないという見解は明快でますます届いた。大いに感銘を受けた。中村恵子長崎大学准教授の「北東アジア非核化のために私たちにできること」では、今の若者の現状と今後への展望を学んだ。これまでの歴史から

「困難な状況はあきらめる理由にならない」との力強いメッセージをもたらした。最後に「核兵器も原発もイカン（ICAN）」のサフタイトルがついた「京都アピール」を採択し、充実した二日間が幕を下ろした。頭も心も満腹の二日間だった。

第30回
反核医師の
つどい
in 京都暑い暑い京都、
参加者の身も心もあつかった!!

坂総合病院 医師 矢崎 とも子

15基もの原発が集中立地している若狭原発。原発テロ・琵琶湖汚染・机上の避難計画の三つの危険性を訴えた福井民医連会長平野治和氏の活動報告は、長年声を上げ続けている氏の思いが伝わる時間だった。

「困難な状況はあきらめる理由にならない」との力強いメッセージをもたらした。最後に「核兵器も原発もイカン（ICAN）」のサフタイトルがついた「京都アピール」を採択し、充実した二日間が幕を下ろした。頭も心も満腹の二日間だった。

被爆者医療に関わるものとして、命をまもる医師として、途方もなく長い時間と想像を絶する被爆と犠牲を産み続ける東京電力福島第一原発のある福島県の隣県宮城に住み、女川原発の立地自治体である石巻で生まれ育ったものとして、民医連の一員として、これから核兵器廃絶・原発ゼロを目指して運動し続けるエネルギーを得た。皆さんにも伝え続けたい。

健康手帳

秋という、紅葉で彩られた山々を思い浮かべます。私は、海のない群馬県の人。人口1万にも満たない小さな町で生まれ育ちました。数年前、民主党政権だった時代に「ダム」で有名な「ダム」で有名になった町です。皆さん、覚えていますか？

▼今年の夏、地元住民に向けたダムツアーに参加してきました。本

体工事はほぼ完成し、湖底に沈むJRの駅や小学校などの跡地を巡ってききました。水が入ればもう二度と見ることもできない風景に、なんとも言えず感慨深いものがありました。

10月くらいいよいよ試験湛水が開始となり、3〜4ヶ月かけて満水にしていき来年の春には本格稼働となるようです。▼1952年の計画から半世紀以上経って、ようやく形になるわけですが、当時と今では事情も変わっていることでしょう。本当にダムは必要だったのでしょうか？すっかり変わってしまった故郷の風景に寂しさを覚えます。▼宮城に住んで28年、群馬で暮らしていたよりも長い年月が経ちました。これからもうずっとここで暮らして行くと思いますが、文部省唱歌の「故郷」を聞くと、生まれ故郷に帰りたいのは私だけではないでしょう。♪志を果たして

いつの日にか帰らん山は青きふるさと水は清きふるさと

